

幌小っ子だより

幌別小学校教育目標

- すすんで学びよく考える子
- 互いに助けあい思いやる子
- 丈夫な体でたくましく生きぬく子

(昭和62年3月改訂)

登別市立幌別小学校

学校だより 第 9 号

令和6年11月22日

いじめの未然防止

～傍観者にはならないで！～

校長 松田周一

11月にいじめアンケートを実施しました。「あなたは、今年の4月から今日までいやな思いをしたことがありますか？」という質問に対して、「いやな思いをした」と回答した児童は82人。その内訳は「冷やか・からかい」がもっとも多く50人。次は「仲間外れ・無視」で26人となっています。ちょっとしたからかいも、相手がいやだなど思ったらいじめです。いわゆる「いじり」をして、相手が笑っていたとしても、家ではもやもやしたり、泣いていたりすることもあるのです。いじめは絶対に許されない行為なのです。

いじめの発見のために一番大切なことは、いじめられている本人が声をあげることです。それに向けて、学校では、相談体制を確立したり、SOSの出し方の授業を行ったりと、困ったことがあったときの対応を充実させているところです。ただ、様々な事由で本人が相談することが難しい場合も多いのです。

そこで、周りの子どもたちの存在が重要なのです。

いじめはいじめる側といじめられる側という二者関係だけで生じるものではありません『観衆』としてはやし立てたり面白がったりする存在や、周辺で暗黙の了解を与える（見て見ぬふりをする）『傍観者』の存在によって成り立ちます。

2021年の北海道新聞に次のような記事が掲載されていました。

「多くの場合、傍観者が多数だ。いじめを止めるために傍観者が担うことができる役割として①いじめを大人に伝える「通報者」②いじめの被害者の気持ちを受け止めるシェルター③いじめから皆の関心をそらす「スイッチャー」④いじめをメモなどに残す「記録」—の四つがあるという。これらの役割を担う人がいれば、クラスの雰囲気を変えられる可能性がある。」
(2021.6.15 道新)

正面から止めることはできなくても、このようなことならできるとは思いませんか。

いじめは、児童の心身の健全な成長に重大な影響を及ぼす、人として絶対に許されないものです。いじめは集団の問題であり、全ての子どもたちにかかわりのあることだと意識化させ、当事者意識をもてるようにしてきます。いじめ見逃し0に向けて、強い意志で今後も教育活動を進めていきます。

※幌別小学校では、いじめ防止基本方針を策定し（幌別小学校HPで公開中）教頭及び生徒指導部長を中心にいじめの未然防止、早期発見、早期対応を進めております。何か心配なこと等ありましたら遠慮なくご相談ください。